

「九州地区西洋古典資料保存講習会・実習」の舞台裏

原賀，可奈子
九州大学附属図書館利用者サービス課資料サービス係

<https://doi.org/10.15017/4067300>

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報．2019/2020，pp.78-85，2020-07．九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International

報告

「九州地区西洋古典資料保存講習会・実習」の舞台裏

原賀 可奈子[†]

<抄録>

2019年12月12～13日にかけて開催された国立大学図書館協会地区協会助成事業「九州地区西洋古典資料保存講習会・実習」について、運営面の報告を行なう。

<キーワード> 国立大学図書館協会地区協会助成事業, 九州地区西洋古典資料保存講習会・実習, 一橋大学社会科学古典資料センター, 西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成, 九州地区大学図書館協議会, 資料保存

A Behind-the-Scenes Report on the Course for Librarians on Conservation of Western Historical Materials in Kyushu District

HARAGA Kanako

1. はじめに

2019（令和元）年12月12～13日にかけて、九州大学附属図書館（以下、「本学」という）において、国立大学図書館協会地区協会助成事業「九州地区西洋古典資料保存講習会・実習」を行なった。本講習会・実習は、資料保存に関する研修機会の少ない九州地区において、デモンストレーションを含めた講義、事例報告などを通して、資料保存に関する知識・技術の向上を図ることを目的としたものである。なお、本講習会・実習は、一橋大学社会科学古典資料センター（以下、「センター」という）からの提案を受け、共同で開催したものである。センター側ですでに実施報告[1]の公開をされているが、本稿では本学側の視点で振り返ってみたい。

2. 開催打診の経緯

センターでは2018（平成30）年度に東北大学附属図書館と共催で東北地区西洋古典資料保存講習会[2]を開催しており、これが地域講習会の初回である。開催のきっかけとなったのは2016（平成28）年度から2018（平成30）年度にかけてセンターが行なっていた「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」[3]である。東北大学附属図書館の担当者は、この事業の一環である資料保存実務研修（以下、「実務研修」という）[4]の研修生であった。

筆者もセンターにおいて、2017（平成29）年度に8週間の日程で実務研修を受講[5][6][7]しており、今回の

九州地区での地域講習会についても、西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成の面から、センターより開催の打診をいただいた。

3. 講習会実施に向けて

2019年6月中旬、センターから正式な開催依頼を受けて、当時の所属課の上司（eリソース課長）に相談したところ、国立大学図書館協会地区協会助成事業への申請の可能性を示唆され、本学内で同事業の事務を担当する図書館企画課企画係（以下、「企画係」という）へ相談した。その後、九州地区大学図書館協議会の研修ワーキンググループの事業の一環として国立大学図書館協会地区協会助成事業へ申請することが決まり、採択された。本学では、採択の結果に関わらず、提案を受け入れることに決まっていたため、申請とプログラム案の作成の準備は同時進行で行なわれた。

3.1. 資料保存班での実施内容検討

本学で資料保存について取り組んでいる資料保存班メンバー（本学に設置されている研究開発室において「コンテンツの形成および保存に関する調査研究」事項の「図書館における資料保存・管理体制等についての調査研究」班に所属）で、研修の具体的な内容について検討した。本学現役職員のなかで、センター主催の西洋社会科学古典資料講習会[8]受講者は5名、西洋古典資料保存講習会[9]受講者は3名（数に含めてはいないが、筆者も実務研修中に聴講生として参加している）であり、資料保存班に所属しているメンバーにも

[†]はらが かなこ 九州大学附属図書館利用者サービス課資料サービス係（〒819-0395 福岡市西区元岡744）E-mail: haraga.kanako.374@m.kyushu-u.ac.jp

数人、受講経験者がいる。しかし、職員全体の人数からすると受講者が少ないため、遙々センターより足を運んでいただき、直接講義いただけることは又とない機会である。可能であれば講習会だけでなく、実習についてのノウハウも伝授いただきたいという希望がまず挙がった。また、九州地区規模での資料保存に関する研修は、本学で2008（平成20）年度に開催した九州地区国立大学図書館協会主催の資料保存セミナー以来となる。資料保存セミナーの際は1日目に講演・事例報告を、2日目に実習を行なうプログラムとなっており、今回もこれを踏襲できないかと考えた。

そして、前年度の東北地区西洋古典資料保存講習会では、一橋大学、東北大学それぞれが事例報告を行っていたことから、本学で事例報告を行なう場合の発表内容について検討した。他大学図書館に活かしてもらえるような本学の経験はなにか、という視点から、これまで遭遇したカビ・虫の対処や、マイクロ資料の対処、また、キャンパス移転に際して行なった資料の手当てが候補として挙がった。本学は2016（平成28）年11月に行なわれた福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会にて「九州大学における資料保存対策」と題してキャンパス移転に向けての資料保存対策の事例報告を行なっているため、その続報ともなる。

東北地区西洋古典資料保存講習会では講師の手元をスクリーンに映し、作業過程が見える形での講義が行なわれていたこと、各受講者が中性紙の封筒をハードボードに貼り合わせて封筒フォルダを作成し、それを持ち帰ることができるようにしていたことから、今回も2日目の実習に参加できない受講者にも作業過程が見え、なにかしら成果としてのモノも持ち帰ることができるように、同様の形での講義も要望として挙がった。

3.2. 館内打ち合わせ

図書館企画課長及び企画係、「コンテンツの形成および保存に関する調査研究」事項に関わる利用者サービス課長、収書整理課長、eリソース課長、電子化・保存専門職員と7月初旬に第1回打ち合わせを行ない、資料保存セミナーを参考とした2日開催案が議論され、1日目に事例報告とデモンストレーションを含めた講義を、2日目に実習を行なうカリキュラム案を組んだ。参加者は九州内の大学図書館所属者を想定していたが、本学伊都キャンパスは福岡市中心部から約1時間程度かかるため、受講者の移動の時間を考えて1日目は午後からの開催とし、午前中に希望者のみ館内見学を受け入れることとした。また、遠方からの両日受講者は宿泊を伴うことを想定し、2日目は受講者の帰途の移動の時間を確保するため午前中のみ開催とした。

移転前の箱崎キャンパスでは中央図書館内に収容人

数約180人の視聴覚ホールがあったのだが、現在は大人数収容のホールを備えておらず、中央図書館内ではアクティブラーニングスペースであるきゅうと commons[10]の講習会スペースが最大のキャパシティである。講習会スペースの公式座席数は48席だが増設可能であり、きゅうと commonsを訪れた学生たちも講習会の様子を眺めることができる。図書館内でこのような講習会が行なわれていることを知ってもらうことも意味のあることであるため、この場所が適切であると考えた。募集人数の目安は50名程度とした。実習については講師補助が可能な人数との兼ね合いから、多くても受講者10名が限界であるとして、定員を10名とした。また、実習に集中できる静かな環境を確保するため、2日目は事務スペース内にある会議室を会場とすることとした。

上記を踏まえてセンターへ2日間開催の可否を訊ね、了承をいただき、2日間開催が確定となった。日程については図書館界で行なわれるイベントや研修、センター主催の講習会や講演会、本学で開催される会議やイベント等を避け、いくつか候補を絞り込み、12月12～13日の開催を9月下旬に決定した。

10月上旬に同メンバーで2回目の打ち合わせを行ない、募集のための広報スケジュールや、当日のおおまかなタイムスケジュール、役割分担等の確認を行なった。

3.3. センターとの打ち合わせ

3.2の館内打ち合わせと並行して、センターとは日程やプログラムに関して、メール等で確認をしていた。デモンストレーションを含めた講義に関しては、東北地区で行なわれた内容をもとにしつつも九州地区用にアレンジしていただけることになった。デモンストレーションや実習については、ページ修理や背の修理、ノドの修理など日常的に需要の高い一般図書の補修の要望が多いことが予想されたが、センターの理念でもある予防的保存や、「劣化も含めて資料の背負ってきた歴史とを考え、積極的に手を加えず現状を保存する」という考え方を重要視し、保存容器類の作成を行なってもらうことにした。また、東北地区での講習会のように講義資料をステープラー綴じ（ホッチキス留め）ではなく、糸綴じで作成していただけることになった。ステープラー綴じは劣化によりサビが生じた際に紙の変色等が問題となるが、糸綴じは資料に与える影響の少ない可逆性のある処置である。細かいところまでも資料保存について意識された心遣いはとても参考になる。

その後、筆者の図書館総合展への出張が決定したため、それに合わせる形で前日の11月11日にセンターで打ち合わせの場を設けていただいた。その際、プロ

グラムの細かな時間配分や実習に必要な資料の数量の確認を行なった。資料については、実際にセンターで使用しているものを見せていただき、とても参考になった。

4. 講習会・実習準備

4.1. 広報・選考

開催通知は10月31日に企画係より、九州地区大学図書館協議会加盟館、国立大学図書館協会会員館、(福岡県)西部地区五大学連携宛に出した。また、本学ホームページでも告知した。国立大学図書館協会地区協会助成事業のため、申込人数超過により選考が生じた際には国立大学図書館所属者を優先することを考えていたが、九州地区で資料保存に関する研修機会が少ないことを鑑みて、対象は「大学図書館等の図書館職員」とし、大学図書館職員に限らないこととした。そして受講者の所属図書館での出張手続き等を考慮し、申込締め切りは11月22日とした。

申込者に所属図書館の資料保存の取り組みについて考えてもらうとともに、申込者の所属図書館で行なわれている資料保存対策を把握するため、申し込みの際に下記点について「はい/いいえ」で回答してもらった。

- ・貴重書閲覧の際に書籍の背やノドの負担を軽減するために書見台を使用していますか
- ・温湿度を記録して適切な温湿度に保つようになっていますか
- ・文化財害虫トラップ等を使用して虫の侵入をチェックしていますか
- ・書籍や書架、閲覧室の定期的な清掃をおこなっていますか
- ・保存容器は中性紙製のものを使用していますか
- ・貴重書を利用する利用者向けに注意点などをまとめた利用マニュアルがありますか
- ・自館での貴重資料の保存方針はありますか

また、この講習会に期待されていることの把握のため、「資料保存についての悩み事や何か質問事項があればご記入ください」という自由記述式の質問を設けた。

最終的に講習会には37名(うち、学内18名)の申し込みがあった。うち、実習の希望者は29名(うち、学内14名)である。実習の定員は10名のため、組織ごとに最大1名の受講とした(複数名の受講希望者がいる図書館のなかには、申込時に受講優先順位を記入して下さっているところもあり、選考の際にとっても助かった)。実習受講希望者のうち、九州地区大学図書館協議会の研修ワーキンググループメンバーには受講

者ではなく聴講にまわってもらうことにした。そのことによって、今回は幸い、実習受講希望のすべての機関から、各1名参加していただくことが可能となった。実習受講者には学んだことを所属図書館内で他の職員へ広めてほしい、という意図があるため、申込機関すべてから受講者もしくは聴講者が出ることになったことは喜ばしいことだった。

4.2. 資料類

11月11日のセンターでの打ち合わせの際に確認した、実習で必要となる資料の数量と本学の在庫とを照らし合わせ、必要資料類の発注を行なった。伊都キャンパスに移転してから在庫状況確認は行なっていなかったため、確認する良い機会になった。なお、必要資料の購入にあたっては国立大学図書館協会地区協会の助成費を使用させていただいた。

4.3. 会場設営準備

2日目の実習は手順ごとに講師の実演を見ながら個々で作業する形式のため、10名の受講者の座席をどのように配置するか、資料保存班メンバーで実際にシミュレーションを行なった。配置を考える際に考慮したのは下記条件である。

- ・受講者が講師のもとへ動きやすい
- ・講師と講師補助も受講者を見て回りやすい
- ・作業のための空間を確保できる

配置案に沿ってセッティングした会場の写真をセンターのメンバーにも見てもらい、最終的に、センターで行なわれている西洋古典資料保存講習会と同様に、ロの字型にしつつも角に出入口を設ける配置とした。



図1 配置図

4.4. 前日打ち合わせ

実習前日の12月10日午後、事前準備のため、センターのメンバーが本学を訪れた。講習会・実習それぞれの会場を見もらったうえで、最終確認や使用資料の準備等を行なった。

5. 講習会・実習当日

5.1. 九州地区西洋古典資料保存講習会(12月11日)

事例報告は、一橋大学附属図書館の堀越香織氏による『『西洋貴重書保存インデックス』のご紹介』[11]、本学の吉丸梓氏・西真理恵氏による「図書館移転における資料保存の取り組み」[12]、本学の山口良子氏に

よる『保存容器さまざま』:資料移転のために作成した保存容器について」[13]の3本で、概論から各論を見ていけるような流れとなった。『西洋貴重書保存インデックス』のご紹介では、2019年4～5月にセンターから各国公私立大へ調査依頼をされていた西洋古典資料保存に関する全国調査で使用された西洋貴重書インデックスについての紹介があった。このインデックスを使うことで、「組織」「閲覧」「セキュリティ」「環境」「複製」の5項目について、自館の取組みを省みることができるとともに、客観視することができる(「西洋古典資料保存に関する全国調査」については2020年3月発行の「一橋大学社会科学古典資料センター年報」に詳細の報告[14]がある)。「図書館移転における資料保存の取り組み」では、キャンパス移転に伴う図書館移転の際に行なったマイクロ資料保全対策、カビ被害資料対策、虫害対策、特殊形態資料対策の取り組みを紹介し、「『保存容器さまざま』:資料移転のために作成した保存容器について」では、さまざまな形態・事情に合わせて各資料に使用した保存容器について、実物を交えての紹介が行なわれた。

講義・デモンストレーションの「予防的保存・今私たちにできること」

[15]では、一橋大学附属図書館の篠田飛鳥氏、山下泰史氏により、センターで行なっている貴重書の状態調査などの取り組みや資料保存対策、資料への処置内容に



図2 デモンストレーションの様子

についての講義とデモンストレーションが行なわれた。デモンストレーションでは、実際に篠田氏が保護ジャケットと保存箱、封筒フォルダを作成しながら解説を行ない、受講者はスクリーンを通して篠田氏の手元の作業過程を見ることが可能となった。封筒フォルダ用のハードボードと中性紙の封筒は、貼り付けを待つだけの状態で各受講者に1セットずつ配布されており、篠田氏の説明を聞いたあとに受講者が実際に貼り付け作業を行なった。

会場後方には、センターで実際に使用している保存容器類や、事例報告で本学が紹介した特殊資料の保存容器類などを展示し、休憩時間等に受講者が実物を手に取って確認できるようにした。実際、休憩時間や講習会後には多くの受講者が眺めたり手に取って細部を確認したりしていた。



図3 保存容器展示の様子

当日のきゅうとコモンズではアクティブラーニングスペースで学生たちがグループ学習をしているなかでの講習会だったが、本学ではよく見られる光景である。学生たちの話し声や5.3で後述のとおり紙類を切る音を受講者にも多少聞こえていたかとは思いますが、そこまで気にならない音だったのではないかと思います。

なお、当日のプログラムは参考資料として末尾に付ける。

5.2. 九州地区西洋古典資料保存実習 (12月12日)

実習では、前日の講習会の「予防的保存・今私たちにできること」の時間に講師の篠田氏が作成した保護ジャケットと保存箱を受講者にも作成してもらった。まず受講者は前方で篠田氏が行なう実演を間近で見学し、その後、実際に作業を行なうという手順で進められた。これはセンター主催の西洋古典資料保存講習会でも行なわれている形式で、受講者は一作業ごとに見学と実践を繰り返す。

今回はハプニングもありつつも、講師と実習補助者6名によって、受講者全員が作業についてきていることを確認しながら進められ、時間内に実習を終えることができた。



図4 講師の実演を間近で見学する受講者

5.3 講習会・実習を終えて

1日目の講習会の受付で、両日参加する受講者から、翌日の実習の際に使用する図書を預かってもらっていた。2日目は実習の時間が限られているため、1日目のあいだに実習補助メンバーで受講者それぞれの図書の寸法を測り、実習に必要なボードや用紙類の切り出しを行なう作業であった。当初は別室で切り出しを行なう予定であったが、せっかくの機会なので筆者を含め本学の実習補助メンバーも講習会を聞き逃したくなかったため、会場のきゅうとコモンズ後方で切り出しを行ない、準備メンバーも作業をしながら講義を聴講することができた。思わぬ形で会場の特性が生かされた時間でもあった。

事前アンケートでは、「何かしら新しい知識を得たい」「修復を行なう基準を知りたい」「適切な修理・修復の技術を身につけたい」という意見が目立った。また、ここで挙がっていた具体的な質問には、1日目の講習会の篠田氏の講演中や質疑の際に回答を行なうことができた。

事後アンケートでは、すべての事例報告、講義・デモンストレーション、実習で「大変参考になった」「参考になった」が9割以上を占めた。また、漠然とした不安を持っていた方からの、「これから自館で何を行なえばよいのか、その道筋を見つけた」というような感

想や、「資料保存に関する考え方を見直さなければと思った」、「資料保存環境を整えることの重要性に気づいた」といった感想も印象深い。講義・デモンストレーションに関しては、特にデモンストレーションについての反響が大きく、スクリーンを使用して手元の動きを見てもらう形式は、このような講習会においてかなり効果的だと感じた。実習に関しては、篠田氏の手捌きと説明の仕方に感銘を受けている受講者が多かった。また、「保存容器の作成の技術とともに注意事項も伝えていく必要がある」と書いている受講者もあり、実習を通して作成の技術を学ぶだけでなく、自分が伝えるとしたらどうするかまで考えて受講されている方がいらっしまったことも印象的だ。

「センターで開催されている講習会を受講したくても行くことが難しかったので九州で参加できてありがたかった」という感想もあり、地域講習会の意義を感じた。「実習で学んだことを現場で共有したい」という感想もあり、この講習会・実習の理念が伝わっているようでうれしかった。

6. 館内実習

本学内で実習受講希望を出していた14名中、受講対象とならなかった13名のなかの希望者を対象に、後日、資料保存実習と同じ内容の実習を行なった。その際、実習を受講した者を講師とし、進め方も講師役に任せた。講師役の職員は篠田氏と同様に、手順ごとに講師が実演を行ない、受講者が同じ作業を行なう形式で進めていた。講師役の職員も、館内実習までに実習で学んだことを復習し、自分なりに消化しており、説明や注意点等も篠田氏が行っていたものを余すところなく伝えていた。また、この日も資料保存班メンバーが講師補助を務めた。

受講者が各大学へ戻り、得た知識を広めるということは、今回の講習会・実習の目的のひとつであったため、本学でそれがすぐに実践できたことはとてもよかった。今後も資料保存班を中心として、定期的の実習を行なうなど企画していけたらと思う。

7. おわりに

2008(平成20)年度に行なわれた資料保存セミナーは筆者が本学に採用された初年度に行なわれており、両日ともに受講させていただいたため、とてもよく印象に残っている。それから11年経った2019(令和元)年、資料保存に関する研修を九州地区で開催でき、その運営に関わることができたことはとても感慨深い。

センターには講習会のみを予定を、講習会と実習の2本立てにさせていただいたことを始めとし、こちらの

要望を最大限に聞いていただき、感謝してもしきれない。両日ともに受講者に好評で、事前質問だけでなく当日の質疑もたくさん出ており、後日追加質問をくださった受講者もいた。

実務研修の際に学んだことで最も心に残っていることは、劣化も含めてその資料が背負ってきた歴史だと考えて積極的に手を加えず保存していく、という考え方であるが、今回の講習会での篠田氏の講義でも、最後に話されていた被災資料のエピソードが印象に残っている。

個人的な反省点はいくつもあるが、このような研修の運営面に関わらせていただいたことは大きな経験となった。西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業の目標のひとつである、保存実務「研修修了後は所属機関に戻った研修生を中心に、さらにそれぞれの地域で保存のための人材育成をセンターと協力しつつ行ない、西洋古典資料の保存のためのネットワークを全国的に構築していくこと」に貢献できたと思うととてもうれしい。今後もセンターと協力し、西洋古典資料の保存のためのネットワーク「ほぞんネット」の一員として西洋古典資料の保存に寄与していきたい。

参考文献

- [1] 山下泰史ほか. 令和元年度「九州地区西洋古典資料保存講習会・実習」実施報告. 一橋大学社会科学古典資料センター年報. 2020, vol. 40, p. 27-32.
<https://doi.org/10.15057/31140>, (参照 2020-7-8)
- [2] 鈴木宏子ほか. 平成30年度「東北地区西洋古典資料保存講習会」実施報告. 一橋大学社会科学古典資料センター年報. 2019, vol. 39, p. 24-29.
<https://doi.org/10.15057/30236>, (参照 2020-7-8)
- [3] 西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業(平成28年~平成30年).
<https://chssl.lib.hit-u.ac.jp/images/2020/02/jigyoo.pdf>, (参照 2020-7-8)
- [4] 保存実務研修.
<https://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/training/>, (参照 2020-7-8)
- [5] 原賀可奈子. 西洋古典資料保存実務研修報告書.
https://chssl.lib.hit-u.ac.jp/images/2020/02/CTPReport_kyushu_2017.pdf, (参照 2020-7-8)
- [6] 原賀可奈子. 西洋古典資料保存実務研修報告書.
<http://hdl.handle.net/2324/1910468>, (参照 2020-7-8)
なお,[6]はセンターの許諾を得て[5]を本学リポジトリに再録したものである。
- [7] 原賀可奈子. 西洋古典資料保存実務研修受講記.
<http://hdl.handle.net/2324/1956597>, (参照 2020-7-8)
- [8] 西洋社会科学古典資料講習会.
<https://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/school-shiryoo/>, (参照 2020-9-4)
- [9] 西洋古典資料保存講習会.
<https://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/school-hozon/>, (参照 2020-9-4)

- [10] きゅうとコモンズ.
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/libraries/central/facilities#als>, (参照 2020-7-8)
- [11] 堀越香織. 「西洋貴重書保存インデックス」のご紹介.
<https://hdl.handle.net/10086/30968>, (参照 2020-8-24)
- [12] 吉丸梓, 西真理恵. 事例報告:図書館移転における資料保存の取り組み.
<http://hdl.handle.net/2324/2547230>, (参照 2020-8-24)
- [13] 山口良子. 事例報告「保存容器さまざま」:資料移転のために作成した保存容器について.
<http://hdl.handle.net/2324/2545081>, (参照 2020-8-24)
- [14] 馬場幸栄. 「西洋貴重書保存インデックス」による西洋貴重書保存管理の指標と評価. 一橋大学社会科学古典資料センター年報. 2020, vol.40, p.9-26.
<https://doi.org/10.15057/31141>, (参照 2020-9-4)
- [15] 篠田飛鳥. 予防的保存・今私たちにできること.
<https://hdl.handle.net/10086/30967>, (参照 2020-9-8)



本著作の著作権は筆者に帰属します。注があるものを除いて、本著作の内容物はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際 (CC BY-NC-ND 4.0) ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

(参考資料)

令和元年度国立大学図書館協会地区協会助成事業
九州地区西洋古典資料保存講習会

日 時 令和元年 12 月 12 日(木) 13:00~17:00

会 場 九州大学附属図書館中央図書館 4 階きゅうとコモンズ

【プログラム】

12:30~13:00 受付

13:00~13:05 開会挨拶

(九州大学附属図書館長 宮本一夫)

13:05~13:25 事例報告「西洋貴重書保存インデックス」のご紹介」

(一橋大学学術・図書部学術情報課古典資料係長 堀越香織)

13:25~13:45 事例報告「図書館移転における資料保存の取り組み」

(九州大学附属図書館利用者サービス課 理系参考調査係 吉丸梓、参考調査係 西真里恵)

13:45~14:05 事例報告「保存容器さまざま」：資料移転のために作成した保存容器について」

(九州大学附属図書館収書整理課長 山口良子)

14:05~14:15 休憩

14:15~16:35 講義・実演・事例報告「予防的保存・今私たちができること」

(一橋大学学術・図書部学術情報課古典資料係 篠田飛鳥、山下泰史)

16:35~16:55 質疑応答

16:55~17:00 閉会挨拶

(九州大学附属図書館事務部長 瓜生照久)

(参考資料)

令和元年度国立大学図書館協会地区協会助成事業
九州地区西洋古典資料保存実習

日 時 令和元年 12 月 13 日(金)9:10～12:00

会 場 九州大学附属図書館中央図書館 4 階会議室

【プログラム】

9:00～ 9:10 受付

9:10～11:55 実習(一橋大学学術・図書部学術情報課古典資料係 篠田飛鳥)

実習内容:資料のドライクリーニング、保存箱作成、保護ジャケット作成等

11:55～12:00 閉会挨拶